

笑顔から見えてくるもの

氏名：細山 美栄子

学校名：青森県八戸市立白銀中学校

担当教科：英語

実践教科：道徳

時間数：5 時間

対象学年：1 学年

人数：24 名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：

たくさんの笑顔から見えてくるそれぞれの生き方、考え方を知り、自分にできる国際貢献とは何かを考えることができる。

中心価値 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。(10)国際理解

関連価値 1 主として自分自身に関すること。(2)希望・勇気・強い意志

【2】

単元の
評価規準

(ア) 関心・意欲・態度

自分以外の国に興味・関心をもち、多様な価値観を尊重しつつ、貢献できることを探そうとする。

(イ) 思考・判断・表現

いろいろな意見に耳を傾け、自分の考えを深めることができる

(ウ) 技能

仲間と意見交流をし、自分にできる活動を見つけることができる。

(エ) 知識・理解

世界にはたくさんの課題があり、その中で暮らす人々の様子を知らることができる。

【3】

単元設定の理由
(児童/生徒観、
教材観、指導観)

(1) 生徒観

男子15名、女子9名と女子が少ない。しかし、男女ともお互いを尊重しあいながら生活しようとする意識が少しずつ生まれてきている。普段から、人との関わり的重要性を意識させ、自分の意見をしっかりと相手に伝えること、相手の意見をまずは受け入れ、その上でお互いに折り合いをつけながら活動を進めるよう、指導している。

ただ、まだまだ幼い言動や行動が男子に多く見られ、無意識のうちに相手を傷つけてしまう発言をしたり、じゃれあいがかげんかに発展してしまう行動があったりと落ち着かない部分もある。

ほとんどの生徒は、自宅でもネット環境が整備されており、様々な情報を得ることができる。しかし、ゲームやマンガなど身近なこと、興味あること以外は、残念ながら知識も少なく積極的に情報を得ようとしめない。

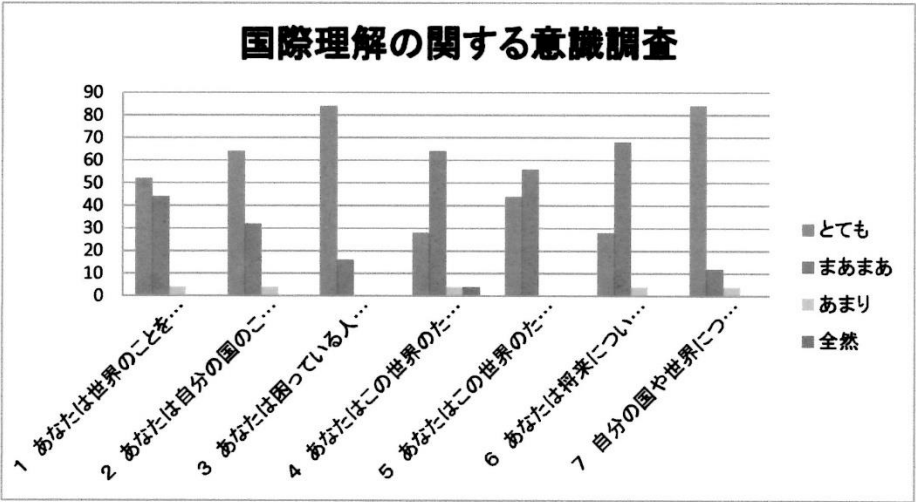
そこで、フィリピン渡航前、生徒の実態を把握するために国際理解についてのアンケート調査を実施した。その結果、半数以上の生徒は、他の国、または自分の国について知りたい、という強い気持ちをもっていることがわかった。しかし、実際何ができるのか、と具体的にイメージできる生徒は3割弱であった。このアンケートで最も興味深かったことは、自分にとって自分の国や世界について知ることが必要だと強く感じている生徒が8割以上いたということである。このことから、必要性は感じているが、そのきっかけを

生徒は見つけていない、ということに気づいた。

そのため、今回のフィリピン研修では、生徒が世界に目を向けるきっかけ作りになるような素材を収集してくることにした。

1の1 道徳 アンケート集計結果(2018年6月25日実施)

質問	単位 %			
	とても	まあまあ	あまり	全然
1 あなたは世界のことをもっと知りたいですか。	52	44	4	
2 あなたは自分の国のことをもっと知りたいですか。	64	32	4	
3 あなたは困っている人のために何かやってあげたいと思いますか。	84	16		
4 あなたはこの世界のために何かできると思いますか。	28	64	4	4
5 あなたはこの世界のために何かしたいですか。	44	56		
6 あなたは将来について、または自分の生き方についてよく考えますか。	28	68	4	
7 自分の国や世界について知ることは自分にとって必要だと思いますか。	84	12	4	



(2) 教材観 実際にとった写真や動画を教材として提示していく。「フィリピン」と聞いて生徒たちはそれぞれ異なったイメージをもっているが、現状をできるだけ多く視覚的に見せることで、テレビや雑誌、SNS 等で得た情報ではない生の情報を知り、フィリピンに対する知識が深まることを期待したい。 本時では、フィリピンで出会った人たちの笑顔の写真を教材として使用する。彼らの笑顔の裏側にある、それぞれの現在の様子、将来の夢、今までの状況などを紹介することで、世界には色々なことが起こっており、その中で困難状況でも前向きに生きる人たちがたくさんいることをしっかりと伝えたい。そして、最終的には生徒が自分の生き方を考えることにもつなげていきたい。 (3) 指導観 フィリピンは開発途上の国ではあるが、日本よりも進んでいる部分、優れている部分がたくさんあることを最初に紹介する。そして、その中で活躍している日本人にも焦点を当て、世界のいろいろな場所で必要とされる日本の素晴らしさも同時に紹介する。 その次の段階として、現地の人に焦点を当て、笑顔で対応してくれた数名を紹介する。その裏側に隠された彼らの厳しい現状も伝え、最終的には、ゴミ山やストリートチルドレンもいる貧富の差の大きい現在の状況もしっかりと伝えたい。 どの国にも、良いところと改善を必要とするところがあり、その中で助け合いながら前向きに生きることが大事である、ということを笑顔の写真から伝え、生徒たちの国際理解、国際貢献へのきっかけ作りとしたい。 できるだけ生徒同士の意見交流の場を多く設定し、教師はファシリテーター役として見守っていく流れにしていきたい。生徒には自分の意見を相手に伝え、相手の意見をじっくりと聞き、自分の意見と比べることが大事である、と強調し、活動を活性化させたい。			
【4】展開計画（全 5 時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	世界のことに興味をもとう ・世界の現状を知る (特に難民問題)	世界の国々のおおまかな様子を紹介する。 ・「地球家族-世界30か国のふつうのくらし」の写真を使って、どこの国かを推理する。そして、日本と異なる点、似ている点について意見交流を行う。 難民について知る。 ・「難民」とは？	・写真 ・プロジェクター ・ワークシート ・PC

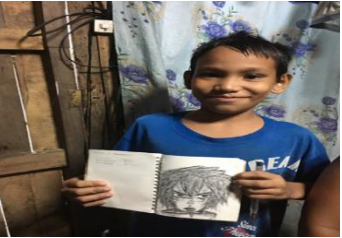
		 	
2	フィリピンの現状を知ろう ・ 11 日間の研修の様子を紹介し、フィリピンってこんな所だ、と気づく。	11 日間のフィリピン研修の様子をパワーポイントで紹介する。	・ プロジェクター ・ パワーポイント ・ ワークシート ・ PC
3	フィリピンで撮影した笑顔にふれよう ・ 5 枚の笑顔を見る。	現地で撮影した中から 5 枚の笑顔の写真を生徒に見せ、印象的な一枚を一人ひとりが選ぶ。そして、その笑顔の人物の現在の状況を写真から想像して文章化する。	・ 写真 ・ ワークシート
4 本時	笑顔で生きることの素晴らしさを写真の人物をとおして学ぼう ・ 写真を通して、自分の生き方を考えるヒントを見つけ出す。	前時で自分が選んだ写真を仲間に紹介し、なぜ、その写真を選んだのか、その写真から想像できることを仲間に伝える。その後、写真の人物の真の情報を聞く。真の情報を聞いたあと、自分の生き方について参考となることを 2～3 個見つけ、文章で書くことができる。	・ ワークシート ・ 写真 ・ プロジェクター ・ PC

5	フィリピンの光の部分と闇の部分を理解しよう ・研修撮影した動画を見ながら、現状を知ることができる。	1 1 日間の研修の中で撮影された 6 分間の映像を見て、仲間と意見交流をすることができる。	・プロジェクター ・ワークシート ・PC
---	--	---	--

【5】 本時の展開

過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5 分)	1、前時の振り返り 5 枚の写真全員でもう一度見て、振り返る。	5 枚の写真を黒板に貼り、全員が写真に注目する。	現地での写真
展開 (35 分)	2、4 人グループで、自分の選んだ写真について発表し合う。(10 分間) <発表内容> 選んだ理由とこの写真から想像できるこの人物のこと。 3、3 人以上の友達に自分の発表を聞いてもらい、感想とサインを書いてもらう。(15 分間) 4、写真の真の情報を聞く。(パワーポイント使用) * マニラ空港で働く女性 出稼ぎ、空港清掃員、笑顔でお客様を送り出したい	発表者は声の大きさや言葉遣いに気を付けて発表を行う。聞き手は相手の方を向いて聞く。このことを意識させる。 相手の発表を真剣に聞き、感想を書くことまでしっかりと生徒同士が行うことができるように、適宜、行う。3 人に聞くことができなかった、時間で終了とする。 真の情報を聞くことで、いろいろな反応が予想されるが、前向きにとらえることができるように、情報の出し方に工夫をする。	ワークシート プロジェクター P C 写真 ワークシート



	*ジョン・マーク君 13歳 7人家族、路上生活、算数・理科が得意、夕方になるとジブニーへのお客さんの呼び込みで100ペソ（約200円稼ぐ）、将来は軍隊に入りたい *ジョベリさん 左腕や脚に障害あり、山間部に住んでいて今まで誰とも接することなく過ごしてきた、現在小学1年生、昨年8月からバイクの後ろに乗って通学している（片道約30分）、絵を書くことが好き *アル君 13歳 午前中は学校に通っている、絵を書くことが好き、エレナさんの長男 *エレナさん 29歳 ごみ山に住んでいる、13歳、12歳、9歳、8歳の子供4人と35歳の旦那さんの6人暮らし、家は自分たちで建てた、カラビンという道具でゴミ山から使えるものを探し出し、売って稼いでいる 5 もう一度自分の選んだ写真を見て、感じたことをワークシートに記入する。	 ©アイキャン    *ワークシートはいったん回収し、その後、教室掲示する。生徒は休み時間等を使って他の意見を読み、共感したこと、気づいたことを付箋紙記入し、そのワークシートに貼っておく。（次回の道徳の授業までに）	
--	--	--	--

まとめ
(10分)

【授業実践の様子】

前の時間の復習として、
5枚の写真を見ながら、
自分が選んだ写真に手を
挙げさせ、確認した。



自分の選んだ写真につい
て、選んだ理由とその人の
現状について写真から想像
できることを4人グループ
で発表し合った。

グループでの発表後は、ク
ラスの他の仲間にも、自分
の考えを発表し、聞いても
らった友だちから感想とサ
インをもらった。



笑顔から見てくるもの

その1 4人グループで写真を選んだ理由とその選んだ人について書いたことを発表しよう。

その2 友だち3人以上に自分の意見を聞いてもらい、感想とサインをもらおう。

1人め 感想 背景までとらえ、その人の中の事でよく考えてると思います。

サイン 優士

2人め 感想 笑顔を見ただけでいろいろなことを読みと
っていいと思いました。

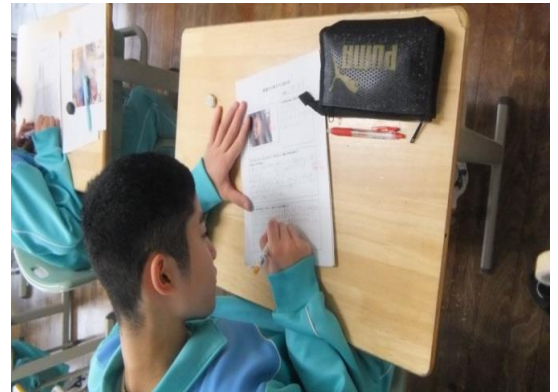
サイン 聖也

このワークシートに、意見を聞
いた生徒は感想を書き、自分の
名前をサインとして書いた。



現在の様子を聞き、自分の想像した人物像と比べた。
また、他の写真の本当の様子も聞いた。

最後、授業の振り返りをワークシートに書き、自分の考えをまとめた。



笑顔から見てくるもの



この写真を選んだ理由を書こう。
 ・笑顔がとてもステキ。
 ・やさしくて、おもしろそう。
 ・仕事を楽しそうにや、アツそう

この人はいったいどんな人だろう。(好きなこと、職業、将来の夢など)・料理が大好き。
 写真をよく見て書こう。・後うのにナツ屋まで働いて、みんなと楽しく仕事
 ・楽しい事が大好き。・誰とでも仲が良さそう。
 ・みんなに優しい。・みんなを笑顔にしてくれる。
 ・か、こい存在。・なんの仕事でも素早くできる。
 ・考え方がポジティブ。・歌を歌うのが好き。
 ・ダンスとかが好き。・お母さんっぽい。・人気者

今、自分の思っていること、考えたことなどを書こう。
 みんな家族思いで、家族の事が大好きでステキな人だな
 と思いました。笑顔から分かる事はたくさんあってとても
 いい笑顔だなと思いました。家族のために働いてい
 てとても優しいと思いました。みんな心が強くて
 か、こい存在と思いました。

笑顔から見てくるもの



この写真を選んだ理由を書こう。
 違う国の、年の近い人が
 どんな生活をしている
 のかを、考えてみた
 か、たから。

この人はいったいどんな人だろう。(好きなこと、職業、将来の夢など)
 写真をよく見て書こう。
 運動が好きで、おしゃべりに気を使う子なのかなと思いま
 した。兄弟や姉妹がいたら、上の子だと思います。かざり
 つけたりするのが好きそうだなと考えました。将来は
 医者とか看護師を目指していそうです。友達が多そう
 だなと思います。

今、自分の思っていること、考えたことなどを書こう。
 5人のすてきな笑顔から、想像もできないような、
 辛いことや苦しいことがあって、どうしてこんなにいい
 笑顔ができるのだろう?と思いました。そのことから
 私は、経済的に貧しい分、家族やまわりの人の優しさ
 に触れ、心は誰よりも豊かなんだなと思いました。

笑顔から見えてくるもの



この写真を選んだ理由を書こう。
笑顔がすてき。
自分の好きなことを
楽しんでいるよう
だから。

この人はいったいどんな人だろう。(好きなこと、職業、将来の夢など)
写真をよく見て書こう。○兄がいる。(青いシャツが大きいからおさがり)
○絵を描くことが好き or ○本を読むのが好き
○後ろのかべが木の板でできているから家はびんぼう。
でも幸せだと思う。 まんがが
○自分のやりたいことができる喜びを知っているから
笑顔だと思う。
○左手にヤンを持っているから左利きだと思う。

今、自分の思っていること、考えたことなどを書こう。
笑顔のうさには私が思っていたことよりもはるかに
つらいようなことがあるけど、みんな幸せだと言ったことが
わかった。私にとては、何気ないことだったり、知
えないことが彼らにとては、あたり前だし、幸せだ
たりすることもあることがわかった。私は、これからは、
どんなことも、幸せに思えるようになりたい。

生徒たちはこのワークシート
を使って自分たちの考えを深
めることができた。

【6】 本時の評価

○生徒の動きや考えの変容について

自分の選んだ写真をじっくりと見て、その写真から読み取れること、また、想像できることを一生懸命に考え、文章化できた。その文章をまずはグループ内で発表し、その後、クラスの友だちに積極的に伝えることができた。また、聞く側の生徒もしっかりと話を聞き、感想をワークシートに書くことができていた。

意欲的に授業に参加しようとする態度が育ってきたと感じた。参観者の方々にも生徒の考えを直接お聞きいただき、生徒の意欲の喚起につながった。

写真に写った5名の人の生活の様子等を聞き、笑顔からは想像できない環境にいることを知ると同時に、笑顔で生きることの大切さや自分の生活を見直すきっかけとなり、そのことを文章で表現することができた。

○題材について

8月、現地で授業案を考える時、開発教育ファシリテーターの藤澤先生からアドバイスをいただき、写真を精選することができた。また、9月の仙台での事後研修でも仲間の先生方からどの写真を選べばいいか、アイディアをいただいたおかげで、5枚の素敵な笑顔の写真を生徒に提示することができた。

○教師の発言について

たくさんの情報を生徒に伝えたいという想いがあり、少し情報量が多すぎてしまい、最後の振り返りの時間が少なくなってしまうことが反省である。パワーポイントで示した情報以上に説明し過ぎてしまった。また、最後に、生徒に見せたかった2人の笑顔の写真を追加したことにより、時間を超過してしまった。次の時間がまとめの時間として設定していたので、そこで調整すべきであった。

【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

ゆうふくではない人たちけど、「幸せですか」と聞かれて
みんなが笑顔で「幸せです」と答えていて、その理由が勉強ができる
からなど、私たち日本人からしたら当たりまえのことだった。日本は確かに便利な国
だとは思ってたけど、あたりまえで幸せに気づいていないと思った。

今までは他の国のことについて、あまり考えたことがなかったけど、改めて
考えてみると、日本に暮らしている私たちはとても「幸せだ」と思いました。
日本のことをよく考えると、他の国の人々はとても強いということがよく
分かりました。私たちにできることはたくさんあることが分かりました。
今日のビデオを見てみて、もっと世界のことについて知りたいと思うようにな
りました。

この時間がかなりフィリピンのことがわかりました。みんな昔々めい生きて
て、笑ってとてもいいことだと思いました。僕も一度フィリピンに行ってど
ういう国が自分の目で見て、あらためてどういう国がたしかめて見たいと
思いました。自分からできることはたくさんしていいと思うことがこの時間
で考えることができた。

私たちは、少しいやなことがあつたりすると落ち込んで、
元んた気持ちでいるけれど、動画で見た人たちは、
前向きに考えていて、しかもその時のことだけでなく
「人生単位で考えたら、それは小さいことだ」と、とても広い
視野で考えていたので、すごいと思いました。
私たちがすべきことは、そのような人たちに、さらなる
幸せをおとどけすることだと思います。

同じアジアにある日本から近い国である「フィリピン」も、授業を始める前は、生徒たちにとっては、未知の世界、遠い国であった。しかし、今回の単元を通して、フィリピンに興味をもち、自分も行って話をしてみたい、同じ世代の人と遊んでみたいという気持ちが多くの生徒には出てきた。また、「幸せ」とはお金では買えないもの、どんな生活をしていても幸せを感じながら日常を生きていくことの素晴らしさを動画や写真等から学ぶことができた。

「笑顔」そして「幸せ」について、フィリピンの方々から影響を受けたことはたくさんあった。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

【3】 単元設定理由 (1) 生徒観のところに記載した事前アンケートと同じものを単元の最後の授業 (11月20日) に行った。その結果、生徒には大きな変容が見られた。どの項目もプラスの方向に数値が伸びた。特に顕著だったものは以下の3つである。

< アンケート 質問1 >

あなたは世界のことをもっと知りたいですか。

とても知りたい 事前 52% → 授業後 95% (+37%)

< アンケート 質問4 >

あなたはこの世界のために何かできると思いますか。

とても思う 事前 28% → 授業後 74% (+46%)

< アンケート 質問5 >

あなたはこの世界のために何かしたいですか。

とてもしたい 事前 44% → 授業後 78% (+34%)

生徒たちは、授業の前は、世界のために何かしたいが、実際に何ができるのか多くの生徒はイメージできない状況だった。 授業を終えて、いろいろな国について知りたいという意欲が非常に高まり、また、生徒たち自身も自分が何か世界のために動くことができそうだ、という考えに変わってきた。	
【途上国・異文化への意識の変容】	
(授業前) 生徒は「途上国＝貧しい、かわいそう」という意識が大半であった。世界各国の家族の様子や子どもたちの写真を見せてもあまり反応がなく、自分たちとは全く違う遠い世界の人だ、という感じで受け止める生徒が多かった。また、フィリピンについても、A L Tの出身国というくらいの認識で、実際にどんな国なのか、深く知る機会がなかった。 異文化に直接触れる機会もあまりなく、外国には興味があるがテレビの映像やネットからの情報だけに限られていた。ごく一部の生徒は小学生の時に、三沢市のアメリカ軍基地に行った経験はあった。	
(授業後) フィリピンの様子を映像で紹介し、その後、フィリピンで出会った人々の「笑顔」に注目させた。そして、最後はフィリピンの発展している部分、そして、絶対貧困の部分動画をみせ、考えさせる時間を設定した。一連の授業を終え、お金では買えないものがたくさんあること、どんな時でも笑顔で生活することの素晴らしさ、本当の幸せは人と人とのかわりの中にあること、等の意見が出てくるようになった。また、日本人はあまりにも便利な生活に慣れすぎていることにも多くの生徒が気づくようになった。 研修中にいただいたキーホルダーや歓迎の時に首からさげた作品、ジュースパックで作られたバックなどを見たり触ったりしてみた生徒たちは、異文化に対する興味・関心が高まった。	

【8】自己評価

苦労した点	本校のA L Tがフィリピン出身であることから、どのようにフィリピンという国を伝えていけばいいのか、悩むことがあった。しかし、A L Tにも私自身が研修してきた内容を伝え、自分が生徒に伝えたい内容も一緒に考えることで解決していくことができた。 授業を進めるにあたり、学年の生徒全員に伝えたいこともあり、時間設定の調整に苦慮した。学年の先生方の協力にも感謝したい。
改善点	学校事情もあるが、単元を「道徳」で扱うのか「総合的な学習の時間」で扱うのか、または、自分の教科で行うのかをあらかじめはっきりとさせておくことが重要だと感じた。また、せっかくの機会なので、学年全体、可能であれば全校生徒に研修内容を伝える時間を設定してもらえば、生徒たちへのいい刺激となると思った。 今回は、道徳で扱うこととし、学年道徳で、フィリピンの研修報告を学年生徒全員に行った。大まかな研修内容は伝えることができたが、考えを深めさせる段階までの時間を確保することはできなかった。

成果が出た点	渡航前からテーマを「笑顔」に絞ることに決めていたので、迷うことなく研修中も素材探しをすることができた。そのかいあって、一枚の笑顔の写真から生徒たちは深く考えることができた。また、公開授業ではＪＩＣＡの方やファシリテーターの先生、本校の職員も管理職をはじめ多くの先生方が参観していただいたことによって、生徒の授業に向かう意欲がより一層高まった。授業後の話合いも非常に充実し、自分自身の授業を振り返る時間となった。 開発教育についても、事前・事後研修等で手法を学ぶ機会があり、さまざまな教科で授業改善に役立てることができた。同時に、ホームルームでは人間関係づくりに参考となった。 生徒の言動では、身の回りのことだけでなく、世界に目を向けた情報を発信しても興味を持ち始め、友達同士で情報の共有や意見交流も少しずつではあるができるようになっていく。
備考（授業者による自由記述）	○人とのつながり 今回の研修に参加し、自分自身の視野を広げることができた。また、たくさんの人とつながることができ、本当に充実した研修となった。事前研修では、毎日が新たな発見であり、さまざまな考え方があることに改めて気づくことができた。また、現地でもたくさんの方々と知り合うことができ、情報を得ることができた。日本人であることを誇りに思える瞬間があったり、フィリピンの人々から学ぶべきことが多いと反省する場があったり、一歩踏み出す勇気をもってよかったなあ、と感じている。渡航前は、不安が大きく、私自身のフィリピン研修の初日の漢字一文字は「臭」であった。帰国直前は「比」に変化した。人々の温かさをいっぱい感じた研修であった。 ○生徒への還元 これまでは、開発途上の国を生徒に伝えることは難しいと感じていた。しかし、実際に現地での経験を踏まえて話すことで、自分の経験や想いを率直に伝えれば、生徒にそのまま伝わるということが分かった。また、経験に勝るものはないなあ、とも感じた。今回は生徒にどれだけのことを還元できたか、まだ、未知ではあるが、少なからず、彼らのフィリピンについての知識は増えたに違いない。

参考資料

マテリアルワールドプロジェクト（1994）『地球家族-世界30か国のふつうの暮らし』

開発教育協会（2016）『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』

開発教育協会(2012) 『開発教育ハンドブック 参加型学習で世界を感じる』

開発教育協会（2009）『身近なことから世界と私を考える授業』

石森広美（2015）『生徒の生き方が変わる グローバル教育の実践』

独立行政法人 国際協力機構 「mundi」